

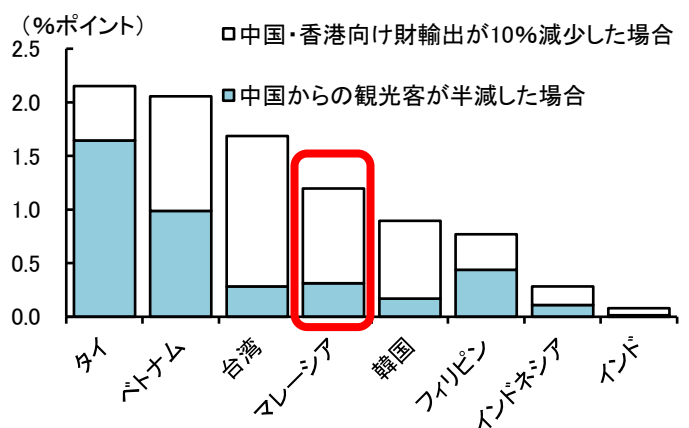
マハティール首相辞任によるマレーシア経済への影響 ～通貨リングの下落や、消費、輸出の減速で低迷長期化のリスク～

- (1) 2020年2月24日、マレーシアのマハティール首相が突如、辞任を発表。与党連合・希望連盟の内部対立による政治混乱が理由。今後は、下院で次期首相が指名される予定。もっとも、与党連合は下院で過半数を下回っており、政治混乱の短期収束は困難な状況。これにより、2017年7～9月期以降の減速傾向が長期化するリスクが増高。影響は、特に以下の3点で表れる見込み。
- (2) 第1に、通貨リングの下落とそれによる輸入インフレを受けた消費の減速。2018年5月の下院議員選挙時に、マレーシアリングは一時的に大幅下落したものの、強いカリスマ性をもつマハティール氏に対する信頼感が為替市場の混乱を抑えた経緯（図表1）。今回、マハティールプレミアムが剥がれることで通貨リングが大幅減価し、輸入インフレと民間消費減速を招来する可能性大。ちなみにマレーシア財務省の推計によると、通貨リングが対ドルで1%下落すると、インフレ率を0.34%押し上げ。
- (3) 第2に、新型コロナウイルスに対する経済対策の遅れ。今回の新型コロナウイルスでは、マレーシア経済も大きな負の影響を受けつつある状況（図表2）。政府は景気刺激策を検討しているものの、首相辞任で対応の遅れは不可避。また、中銀は足元で利下げしたものの（図表3）、上述のように為替市場が混乱すれば、今後の追加利下げは困難に。
- (4) 第3に、パーム油のインド向け輸出の回復の遅れ。インド政府は、新国籍法などに対するマハティール首相の批判を理由に、2020年1月初より事実上同国からのパーム油輸入を禁止。インドは同国の最大のパーム油輸出先であり、この影響から2020年1月のパーム輸出量は全体で前年同月比▲27.8%、インド向けが同▲85.2%減少。最終的にはマハティール首相の辞任は関係改善のきっかけになると期待されるものの、早期の安定した次期政権の発足が困難ななか、当面関係修復へ向けた動きは見込めず、インド向けパーム油輸出は不振が続き、同国輸出全体の足かせに。

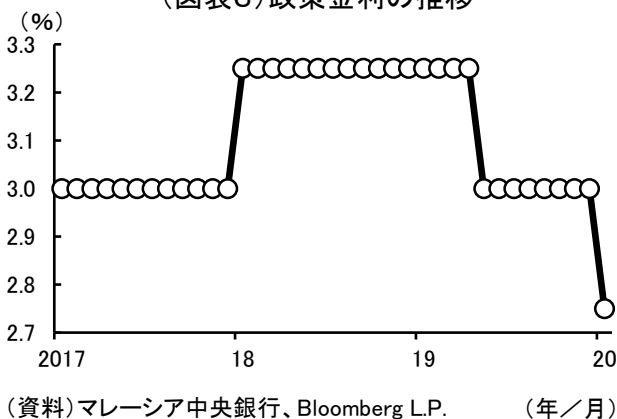
（図表1）リングの対ドルレート（週次）



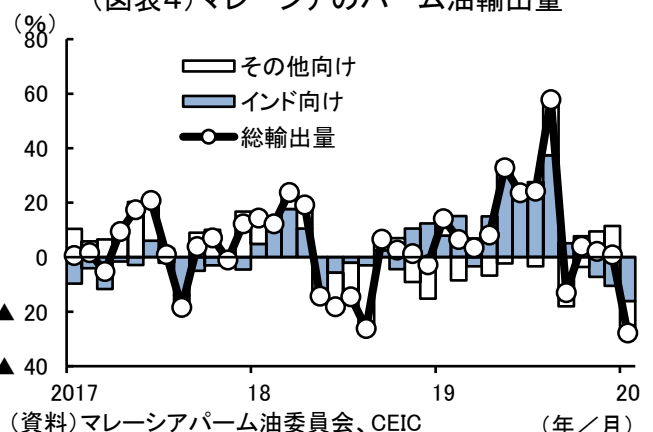
（図表2）新型コロナウイルスによるGDP下振れ幅



（図表3）政策金利の推移



（図表4）マレーシアのパーム油輸出量



【ご照会先】 調査部 副主任研究員 塚田雄太 (tsukada.yuta@jri.co.jp , 03-6833-6719)